



名嘉地義昭「Untitled」

戦後80年特別シンポジウム

不発弾がなくなる その日まで

入場無料

要事前申し込み
先着200名

TVの公開収録が
あります

2026年 1月20日(火)

17:00～19:30

開場16:30

琉球新報ホール

那覇市泉崎1-10-3 琉球新報本社3階

第1部

■沖縄県における不発弾の現状と対策

■基調講演

「戦後80年、沖縄戦の歴史的教訓と
知見の活用について」

・園原謙

■不発弾事故被害者の声

・名嘉地義昭

第2部

■パネルディスカッション

・園原謙
・宇良一成
・田島勝
・玉城江梨子
・池田竹州

(敬称略)

戦後80年を迎えた現在も、沖縄の地には多くの不発弾が残されており日常の中に潜む危険として県民の暮らしを脅かし続けています。不発弾は、戦争が終わってもなお私たちの足元に存在し続ける「地中に眠る戦争の記憶」であり、反面的に平和の尊さと脆さを語りかけているのです。

本シンポジウムでは、戦後80年という節目を単なる回顧の場とするのではなく今後の沖縄や世界の歩みを見据え、平和の実現に向けた新たな視点を共有すると同時に不発弾の危険性を改めて見つめ直し、磁気探査の必要性について広く周知します。

第1部

■ 沖縄県における不発弾の現状と対策 沖縄県危機管理課

■ 基調講演（敬称略）

戦後80年、沖縄戦の歴史的教訓と知見の活用について
—カンボジアの「平和博物館」運営の
人材づくりの支援協力事業を通して—



園原 謙

沖縄県職員として沖縄県平和祈念資料館、教育庁文化財課、沖縄県立博物館・美術館などに勤務。2009年からカンボジアの平和博物館の人材育成に関わる。

■ 不発弾事故被害者の声



名嘉地 義昭

郷里の石垣島の海岸で機銃弾爆破事故に遭い、両手の指を失う。生きることを表現するために絵を描き続けている。



不発弾がなくなるその日まで

第2部

■ パネルディスカッション（敬称略）

パネリスト

園原 謙

沖縄県文化協会事務局長

宇良 一成

NPO法人「沖縄の不発弾等を考える会」理事長

田島 勝

聖マタイ幼稚園不発弾爆発事故関係者

玉城 江梨子

琉球新報社記者

池田 竹州

沖縄県副知事

進行／島洋子

琉球新報社取締役 統合広告事業局長

不発弾関連パネル・名嘉地義昭氏絵画展

■ 展示期間

2026年
1月15日(木)～20日(火)
9:30～17:30

■ 会場

琉球新報本社
1階エントランス

入場無料

事前申し込みが必要です。右のQRコードからお申し込みください。

◆TVの公開収録のため客席が映り込む場合がございます。あらかじめご了承ください。

◆会場の琉球新報ホールには駐車場はございません。有料駐車場、公共交通機関をご利用ください。

